

課題解決の狙い	評価軸	WS案 A	WS案 B + WS案 B'	WS案 C
① 地域のまとまりや一体感を形成する	<ul style="list-style-type: none"> 住民同士が交流できる居場所は確保しているか 誰もが気軽に利用できる施設になっているか バリアフリー施設となっているか 多世代が使えるスペースになっているか 身体を動かす広いスペースは確保されているか 大人数が集まれるスペースや施設は確保されているか 地域の拠点施設として活性化は見込めるか 	◎	○	△
		<ul style="list-style-type: none"> 農改センターの貸室を1階に集約することで、昇降を不要にする 多目的ホールが、身体を動かすことや大人数が集まることができる広いスペースになっている 現状の施設規模を最大限に活用することで、さまざまな地域活動を行うことが期待できる 農改センターに予約不要でだれでも使えるスペースを整備することで、住民同士の交流の活性化が期待される【共通】 農改センターに親子や高齢者の居場所機能、学習スペースを確保することで、幅広い年代で使い、多世代が交流できる施設として期待される【共通】 トイレの整備や段差解消など、バリアフリーに配慮して整備する【共通】 地域の課題解決を目的とした組織であるコミ協の事務室がある【共通】 	<ul style="list-style-type: none"> 農改センターを、2階でEV設置または平屋にする 大人数で行う地域活動を実施できるが、現状の施設規模より活用の幅が狭まる可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 農改センターを複数階でEV設置または平屋にする 農改センターの部屋を繋げることで広いスペースを確保できるが、多目的ホールより狭い 大人数で行う地域活動などは、小中学校の体育館を利用する必要がある
② 子育ての環境、若者や高齢者の居場所をつくり、地域を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> 多世代が使えるスペースになっているか 学生や親子が行きたいと思える場所となっているか 	○⇒◎	○	○
③ 過度な財政負担が将来世代に残らない	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営コストは削減されるか 施設維持更新費用は削減されるか(改修・改築費) <small>※農改センター、老人憩の家、保育園、各集会所などの各施設を30年間そのままの規模で維持した場合のコストとの比較</small> <small>※施設運営コストは、平成29～31年度の3か年の平均値が30年間そのままかかるとした試算値</small> <small>※施設維持更新費用は、修繕・改修・改築・解体を合計した試算値</small> <small>※外構部分は含まれていない</small>	△⇒○	○	◎⇒○
		<ul style="list-style-type: none"> 30年間で約31.0億円の削減 施設運営コスト：約23.8億円削減 施設維持更新費用：約7.1億円削減 	<ul style="list-style-type: none"> 30年間で約33.3～34.0億円の削減 施設運営コスト：約25.0億円削減 施設維持更新費用：約8.3～9.0億円削減 	<ul style="list-style-type: none"> 30年間で約35.5億円の削減 施設運営コスト：約25.8億円削減 施設維持更新費用：約9.7億円削減
④ 既存の建物の有効利用、利用率を高める工夫、利便性向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 多用途に利用できる施設になっているか 施設面積は削減されるか 施設の効率的な活用につながっているか アクセスしやすい施設配置となっているか 歩いて行ける場所に集まれる施設はあるか 十分な駐車場は確保されているか 使いやすい駐車場は整備されているか 	△⇒○	○⇒◎	◎
		<ul style="list-style-type: none"> 農改センターを現在の施設規模で整備することで、コミュニティ・運動・調理以外にも学習・居場所などの利用が十分に確保することが期待できる 老人憩の家の廃止により、総施設面積が削減 利用率の高い農改センターの多目的ホールが継続する一方で、施設規模が維持されるため、施設利用の効率化の課題が残る 農改センターの駐車場の整備には樹木伐採などの必要があり、課題が残る 	<ul style="list-style-type: none"> 農改センターを整備することで、コミュニティ・運動・調理以外にも学習・居場所などの利用も可能 老人憩の家の廃止や農改センター（多目的ホールを除く）の縮小により、総施設面積が削減 農改センターを、利用率の高い多目的ホールを除いて利用状況に応じた規模で整備するため、施設利用の効率化が図れる 農改センターの減築に伴い、利便性の高い駐車場の整備が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 多目的ホールがなくなるため、運動や大人数の利用に制限がある 老人憩の家の廃止や農改センター（多目的ホールを含む）の縮小により、総施設面積が削減 農改センターの利用率の高い多目的ホールがなくなるが、複数の部屋をつないで広いスペースを確保し、利用状況に応じた規模で新たに整備することで施設利用の効率化が図れる 農改センターの建て替えに伴い、外構部分が最も広くなり、駐車場の整備や駐車場の確保が期待できる
		<ul style="list-style-type: none"> 大江山地域の中心に、地域の拠点となる農改センターに向かう公共交通が整備されている【共通】 老人憩の家の廃止に伴い、歩いて行ける施設が減少するが、自治会集会所や空き家等の活用で集まれる場所の確保の検討は可能【共通】 		
		○	○	○
⑤ 災害に強く安全な地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 安心して生活するため、災害時に避難できる施設はあるか 地域に備蓄倉庫は整えてあるか 	○	○	○
		<ul style="list-style-type: none"> 丸山・大淵小学校と大江山中学校が避難所として確保されている【共通】 避難所指定されている各学校には避難所運営ボックスが設置されており、農改センターには備蓄倉庫が設置されている【共通】 		